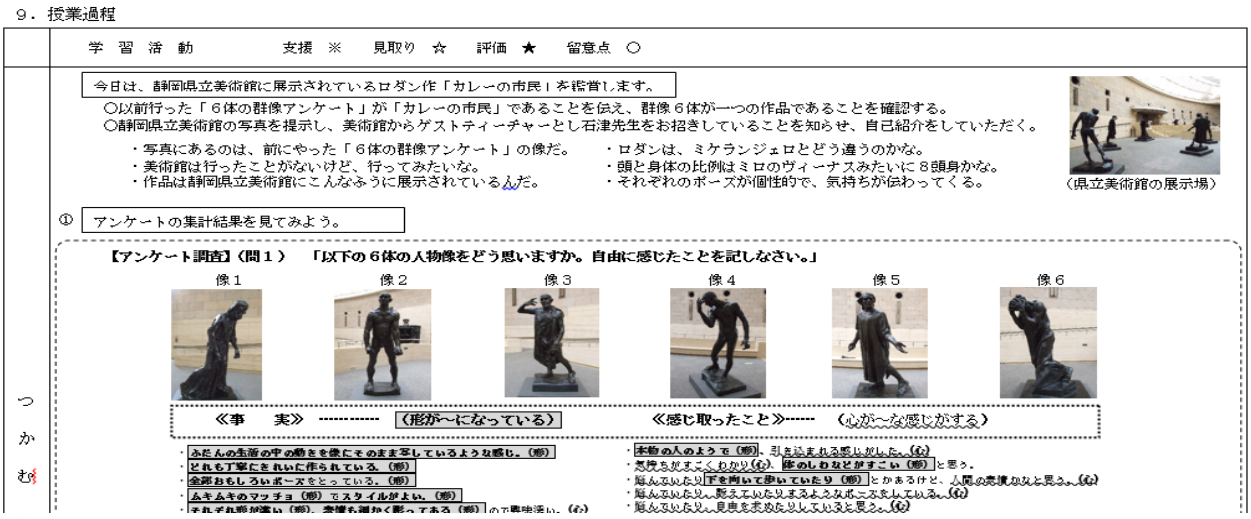
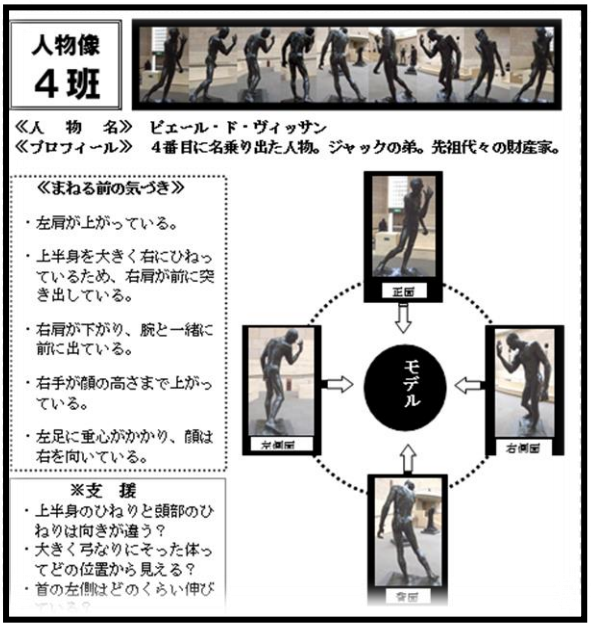
■指導案より抜粋

本時の目標

ロダンはモデルをそっくり写し取って「カレーの市民」を制作したと考える生徒が、班で協力して四方向からとらえて正確にポーズをまねることで、「ロダンは、なぜまねにくいポーズの作品を制作したのだろう。」という疑問を抱き、付箋紙を「ポーズ」(形)と「心情」(心)の座標軸に位置付けて班で説明し合うことで、ロダンは動勢を工夫した(まねにくい)ポーズによって、テーマや心情に迫ろうとしたことを理解し、作品に対する見方や感じ方を広げる。





実際にポーズを真似してみて、鍵を持ち、それを渡すと大変な事になる。気持ちも激しいと始めは思ったけれど、手の力のいれ具合や、しっかりと地面を踏みしめどこか遠くを見るような姿から、覚悟を決め落ち着いていると感じた。またそれは誠実な商人であったジャン・デールだったからだと思う･･･

授業中の生徒の話合いより

■GT 静岡県立美術館　学芸員

像	ポーズ（まねにくさ）	心情表現（激しさ）
隊１ ユスタシュ・ド・サンピエール	・大きく前に踏み出した左足に体重がかかり、前傾姿勢のまま倒れてしまいそうだ。 ・左手左足が同時に前に出るのは不自然な動きだ。 ・左ひざを内側に入れることで、倒れにくくなっている。	・長老として真っ先に名乗り出た責任の強さが感じられる。 ・命と引き換えに町を守ろうとする長老としての威厳が感じられる。 ・前に大きく踏み出した左足に、死の恐怖に打ち勝とうとする強さが感じられる。
隊３ ジャック・ド・ヴィッサン	・どんなに踏ん張っても、こんなに傾いたら立っていられない。 ・右手を高く掲げ、顔を上げることで、何とか倒れずバランスをとろうとしているのかな。	・兄として弟より先に名乗り出た時の思いが表現されていると思う。 ・体の傾きに死を覚悟して前に進もうとする気持ちが表れていると思う。 ・掲げた右手には、前進を拒む気持ちや葛藤が表れているのかな。

■ポーズをまねした後のグループワーク